



戸田中だより 『紫雲』

学校教育目標

＜自主協調＞

生徒が主語になる自主

全員が納得解を求める協調

令和5年11月1日 第7号

生徒の成長を支える環境づくり

教頭 藤田 政貴

1か月前は「暑い、暑い」と言っていたのに、今、職員室の窓から見える木々は徐々に色づき始めています。秋の心地よい気候の中、生徒は日々の学習や活動に頑張っており取り組んでいます。

秋に思いつくものといえば「芸術の秋」です。去る10月25日、全校による合唱祭を数年ぶりに行いました。御来校いただいた多くの保護者の皆様、受付や自転車誘導に協力いただきましたPTAの皆様にご感謝申し上げます。おかげさまで、すべてのクラスが、そのクラスでしか表現できない「世界で一つだけの歌」を戸田市文化会館の大ステージで披露することができました。生徒の歌声は、子供らしさと大人っぽさが共存し、この半年間、クラスの仲間とともに歩んできた日々への思いが伝わってくるような感性豊かな歌声でした。

合唱祭を終えた後、この豊かな歌声をつくりあげた生徒の感性は、どうやって育まれたのだろうと考えました。「練習の積み重ね」も認めつつ、歌や声、演奏という目に見えないものに息吹を吹き込む感性をどうしたら育てられるのか、その秘訣をさらに知りたい、と思ったのです。

「感性豊かな人物」としてすぐに思い浮かんだ方は、将棋棋士の藤井聡太さんでした。藤井さんが前人未到のタイトル八冠独占を成し遂げられた将棋の世界は、理論、経験、直感や感情が交錯する厳しい世界であり、そのような厳しい世界を生き抜いている藤井さんは、素晴らしい感性をお持ちなのではないかと考えました。そこで、御家族や将棋の師匠、対戦された棋士など、藤井さんの周囲の方々が語っていらっしゃるコメントや記事、本を調べてみました。以下に印象に残った言葉を示します。

- ・練習中にも発揮する集中力
- ・強くなるために、負けを受け入れる
- ・小学2年から始めたインターネット対局や将棋の研究ではPCを活用。自室にこもるのではなく、リビングにある家族共用のものを使っている
- ・いまだかつてあれだけ激しく泣く子を見たことがありません。逆に、あれだけ切り替えが早い子も見たことがありません
- ・(藤井さんは)「よく考えたい人」
- ・「将棋以外で、今、夢中になっていることは？」の回答は、「将棋観戦」
- ・(敗北した棋士の何人かに「藤井さんとまた対戦したいか?」と尋ねたら、)皆、即答で「イエス」

『藤井聡太 天才の育て方』(プレジデント社) 『藤井聡太は、こう考える』(PHP 研究所)

『Sports Graphic Number』(文藝春秋社) から引用

これらの言葉から藤井さんご自身の凄みを感じたのと同時に、どの方も藤井さんを深く観察されていて、彼の考え方を尊重し、チャレンジを辛抱強く見守り、そして藤井さんを家族として、弟子として、ライバルとして愛している様子を感じ取りました。藤井さんは「人」という環境の中で、丁寧に感性を磨いてきたのだ、と思いました。

そのような「人が育つ環境づくり」は、本校が最上位目標に掲げる「自ら未来を切り拓く生徒」の育成にもつながります。後期半年間も教職員一丸となって生徒の成長の機会と環境となれるよう取り組んでまいります。引き続き皆様の御理解、御協力のほど、よろしく願いいたします。

